

エイズ孤児支援NGO・PLAS 事業・決算報告書

2009年度

2009年4月1日—2010年3月31日

ごあいさつ

2009年度も終わり、PLASにとって活動を初めて、4年目が終わったことになりました。2008年度に、初めて有給で国内と現地に1名ずつスタッフを置き、事業も組織も大きく成長しました。2009年度は特に現地ケニアでの母子感染予防事業を軌道に乗せるべく、特に母子感染予防事業に力を入れて活動を行ってきました。親を失ったエイズ孤児だけでなく、これから生まれてくる子どもたちにHIV感染をさせないための活動は、お母さんと赤ちゃんの命に大きく関わる事業で、事業の重要性と意義を、日々感じています。

活動を続けていく中で、地域のリーダーや地域住民など、アフリカの人々が自分たちの地域を変えるために立ち上がる姿に、いつも励まされ、勇気づけられてきました。彼らと共に、エイズ孤児たちががのびのびと育っていける社会を作るべく、まい進していく所存です。

私たちがこのように活動を続けていくことが出来るのも、皆様のご支援、応援があるからに他なりません。深く感謝申し上げます。

今後とも、みなさまの一層のご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

エイズ孤児支援NGO・PLAS代表理事
門田瑠衣子

Our Vision

エイズによって影響を受けた子どもたちが差別されることなく活躍していける社会、そして全ての人がエイズの脅威から解放される世界を目指します。

Our Mission

プラスはこのビジョンを実現する為に、

1. エイズ孤児の保護・サポート
2. エイズ孤児が生まれる悪循環を断ち切る
3. エイズ孤児について知らせる この3つを柱に活動します。

Contents

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 1 ごあいさつ
Our Vision
Our Mission | 5 国内事業 世界エイズ孤児デー
キャンペーン |
| 2 海外事業 ケニア | 6 国内事業 世界エイズデーレッドリ
ボンフトボールプロジェクト
助成金実績
主なメディア掲載 |
| 3 海外事業 ウガンダ | |
| 4 海外事業 ワークキャンプ | 7 会計 |

KENYA

ニャンザ州ウゲニャ県ウクワラ郡

地域概要

この地域はケニア共和国で最もHIV感染率が高いニャンザ州に位置しており、HIV感染者数がケニア共和国全体で約8.3%であるの
に比べ、この地域のHIV感染率は2002年の
時点で38.4%です。住民の多くが農業に従
事しており、住民の約6割が絶対的貧困層と
言われています。



HIV / AIDS

エイズ啓発・母子感染予防事業

この地域では、妊産婦やその家族が病院へ行くことを拒んだり、HIV検査を受けること
自体が差別の対象となったりするなど、社会的な側面から、母子感染予防プログラムを
受けることができない女性が多く存在します。

また、およそ二人に一人の妊産婦が、病院に来て初めて母子感染について知るとい
う現状があり、母子感染自体を知らない人が多いことも指摘されています。

妊産婦やその家族が、母子感染予防について事前に知り、病院へ行くことの重要性
を感じることが必要とされています。



母子感染予防を地域でリードする リーダーを育成する

2009年1月より、地域のリーダーに対して、
母子感染予防についての研修を行い、彼ら
の地域での啓発活動を支援しています。
研修を受けた後、リーダーたちはモブライ
ザーと呼ばれ、各区でグループを作り、月
に2~4回程度の母子感染予防啓発事業を
行っています。13名のモブライザーが育ち、
精力的に啓発活動を続けており、啓発活動
には、平均して1回あたり100名ほどの地域
住民が参加をしています。定期的にフォ
ローアップの研修や情報交換の場を作り、
彼らが活動を続けられるよう継続した研修
を提供し、また啓発活動のモニタリングを行
い、啓発の質を高められるよう、活動への
アドバイスも行っています。

母子感染を防ぐ重要性

現在世界では、210万人の15歳以下の子どもがHIVと
ともに生きています。

そのほとんどが、お母さんからの感染です。
そして、母子感染した子どもの50%は2歳になる前にな
くなってしまいます。

しかし、母子感染は、適切な処置とケアを行うことで、
その感染率を、3%以下に抑えることができます。現在、
その適切な処置とケアを受けられるのは、HIVに感染し
ている妊産婦の10%以下なのです。



UGANDA

ルウェロ県ガルウェロ地区

地域概要

ウガンダ共和国ルウェロ県ガルウェロ地区は1980年代に国内の混乱の中で、多くの住民が同じウガンダ人により虐殺され、財産や家畜を奪われ、子どもが少年兵や性的搾取の対象として拉致されたという悲惨な経験をしている地域です。20数年経過した今も、エイズ孤児を含む孤児が多くいます。



Construction

学校教室建設

エイズ孤児たちが教育を受けられない状況をどうにか改善しようと、有志の地元住民によって2007年に開設されたBasajjansolo Memorial Training Centre小学校（以下BMTC小学校）の学校教室建設支援を行いました。2008年には二つの教室を建設し、2009年度は一つの新規教室建設を行い、子どもたちが安心して初等教育を受けられる環境を整えました。2008年の支援開始当時は50名程度であった生徒は、2009年には138名に増え、多くの生徒が学んでいます。



今後の支援

2010年から2012年にかけて、さらに2教室を建設し、7年生までの学校教室が完成する予定です。また、建設活動に付随して、学校で行われるエイズ教育の充実への協力などを通じて、HIV/エイズに関する正しい知識を広め、人々のHIV新規感染を予防し、HIV/エイズやエイズ孤児への差別解消をはかることで、エイズ孤児の根本的な問題であるエイズの問題にも歯止めをかけることができるよう取り組みます。

学校の今後

現在は幼稚園及び小学校のみで構成されていますが、卒業後、自立した生活を生徒が営んでいけるよう、小学校高学年から職業訓練を学校のカリキュラムに組み込み、卒業後に中等教育に進むことができなくても、職を得たり、自分たちで職を創出したりできるよう、将来的には職業訓練所を併設することを検討しています。この職業訓練所については、プラスが今後支援を行うかどうかは未定です。



HIV / AIDS

エイズ啓発事業

学校保護者や地域住民にHIV/エイズやエイズ孤児に対する理解を深めてもらうことを目的とし、2009年9月にエイズ啓発ワークショップを開催しました。地域団体によるエイズ啓発の歌や踊りが披露され、HIV/エイズについての講義などが行われました。



WORKCAMP

ウガンダでワークキャンプを実施

ワークキャンプ概要

アフリカの現地で、2週間から3週間の合宿型ボランティアプログラムです。日本からのボランティアとアフリカ現地からのボランティアを受け入れています。ボランティアはプラスの事業地で建設作業、エイズ啓発の広報活動などに従事します。



Uganda 夏



2009年9月3日から18日にかけての16日間、ウガンダ共和国のルウェロ県の、Basajjansolo Memorial Training Centre (以下BMTC)で同地では3回目となるワークキャンプが開催されました。

今回のワークキャンプには、日本人19名、ウガンダ人10名が参加し、BMTCの新規教室建設を行いました。

建設着工時は木や草が茂っている空き地でしたが、日本人ボランティア、ウガンダ人ボランティアで協力して作業を行い、教室の屋根をのぞいた基礎構造まで完成しました。

また、期間中に行われた学芸会では、日本人とウガンダ人のボランティアが一緒になってソーラン節を披露し、学芸会を盛り上げました。学芸会はエイズ啓発も兼ねており、地域団体によるエイズ啓発の劇やワークショップなどが開催されました。



Voice

参加の声

日本での生活とは全く異なるウガンダでのウガンダ人ボランティアとの共同生活を通して、多くの日本人ボランティアは様々な発見があったようでした。大きなテーマになったのが「本当の豊かさとはなにか」ということでした。現地の人々の営みを通じて、経済的な尺度だけでは測れない、かけがえのない豊かさを感じることができたようでした。

日本帰国後は、ボランティアが中心となって、彼らが現地を感じたことを人々に伝えるイベントも積極的に行いました。多くの日本人ボランティアから「今回のキャンプに参加して本当によかった」という感想をもらい、現地での支援事業の実施とともに若い世代の人材育成を担う、当会におけるキャンプ事業の意義深さを再認識するキャンプとなりました。

(キャンプリーダー 一宮暢彦)



世界エイズ孤児デーキャンペーン

5月7日の世界エイズ孤児デーに合わせてエイズ孤児を知ってもらい、支援につなげるための啓発キャンペーン

キャンペーン概要

本年が3年目となった世界エイズ孤児デーキャンペーンは、「こどもたちのえがおに、未来を。」をキャッチコピーに、“アート”を通じてありのままのエイズ孤児の姿を伝えることを目的として実施しました。絵本テイストのブックレットの発行や企画展示、イベント、チャリティオークションなどを行いました。



Book

ブックレット「こどもたちのえがおに未来を。」今まで、エイズ孤児の存在を知らなかった人に1人でも多くエイズ孤児の存在を知ってほしいという思いをこめてブックレットの発行を行いました。三万部を発行し、多くの方にエイズ孤児の姿を届けました。

GW中の5月4日5日には渋谷駅前のモアイ象付近にてブックレットの街頭配布を行いました。親子連れなど多くの人でにぎわっていた中でブックレットを直接手渡すことができました。

その他にもアフリカンフェスタやデザインフェスタなどのキャンペーン期間中に行ったイベントや、アイデアインターナショナルの全国各店や協賛企業・賛同団体のご協力により配布を行いました。



Event



No distance

5月24日SHIBUYA J-POP caféにて、タレントの中鉢明子氏、ウガンダ出身のエイズ孤児のナルボワ・クリスティーン氏、ルベガ・ロナルド氏、ジャンベグループのジャバテ・デンバヤ、MCとしてHappy だんばら氏を迎えてのトークショーを開催しました。

Gallery

表参道ヒルズ写真展

5月8日(金)～20日(水)に、表参道ヒルズ西館地下2階の「Idea Frames」ギャラリーにて、写真展を行いました。

この展示では、世界エイズ孤児デーキャンペーンの一環で作製したブックレット「こどもたちのえがおに未来を」のpe:peさんの原画の展示、またケニアのストリートチルドレンのドキュメンタリー「チョコラ！」のスチール写真の展示を行いました。

また、4月7日(火)～4月19日(日)の間、広尾のJICA地球ひろばにて、写真展を行いました。



世界エイズデー レッドリボンフットボールプロジェクト

12月1日の世界エイズデーに合わせて
啓発キャンペーン

キャンペーン概要

プロジェクトオフィシャルサポーターになでしこジャパンでもご活躍の澤穂希さんを迎え展開したキャンペーン。チャリティフットサル大会の開催、レッドリボンオリジナルフットボールを制作、販売、チャリティオークションの実施などを行いました。



Event



チャリティフットサル大会

2008年11月28日、フットサルクラブ東京・東陽町コートKELでチャリティフットサル大会を開催。約120名が参加しました。また、11月21日にはアイデアインターナショナルにて、澤さんをゲストにお招きし、プロジェクトキックオフチャリティパーティを行いました。

Auction

11月16日～2月2日にオークションを実施し、多くの著名人の方々に私物やサイン入りオリジナルグッズ、サイン入りレッドリボンオリジナルボールをご提供いただき、339,200円の寄付が集まりました。

Products

Idea RootおよびSFIDAよりオリジナルフットサルボール制作、販売のご協力をいただきました。



助成金 実績

- ・(特)国際協力NGOセンター(JANIC)様と(財)庭野平和財団様の共同事業である「国際協力NGO次世代リーダー育成事業」より、2008年度、2009年度の2年間にわたり、計200万円の助成。
- ・リコー社会貢献クラブ・FreeWill様より、30万円の助成。

主なメディア 掲載

- 新聞
 - ・朝日新聞(5月15日付朝刊)に表参道ヒルズ写真展の様子が掲載されました。
 - ・河北新聞・茨城新聞・福島民報など全国地方紙に世界エイズ孤児デーキャンペーンが掲載されました。
- ラジオ
 - ・FMJ-wave「BOOM TOWN」に当会代表門田が出演。
 - ・FM FUJI「super today FUJI」に当会代表門田が出演。
- 雑誌
 - ・『ソトコト4月号』にて世界エイズ孤児デーキャンペーンが紹介されました。
 - ・『footballista特別号』『ワールドサッカーキング』にてレッドリボンフットボールプロジェクトが紹介されました。
- ネットメディア
 - ・『Let's Enjoy TOKYO』に表参道ヒルズ写真展が紹介されました。
 - ・『livedoorニュース』にてYahoo!チャリティオークションが紹介されました。

科目	金額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費収入	228,000	
2 事業収入	2,274,740	
(1) 啓発事業収入		874,740
(2) ボランティア派遣事業収入		1,400,000
3 助成金等収入	1,200,000	
民間助成金収入		1,200,000
委託事業収入		-
4 寄付金収入	3,087,449	
5 その他収入	2,114	
利息収入		2,114
6 その他の事業会計からの繰入		
経常収入合計	6,792,303	
II 経常支出の部		
1 事業費		
(1) ケニア事業費	2,201,845	
(2) ウガンダ事業費	635,803	
(3) 国内事業費	2,067,896	
2 管理費	1,676,783	
(1) 役員報酬		0
(2) 給料手当		2520000
(3) 什器備品費		30000
(4) 光熱水費		0
(5) 家賃		240000
(6) 消耗品費		120000
(7) 通信運搬費		96000
(8) 印刷製本費		94000
(9) 交通費		180000
(10) 租税公課		480000
経常支出合計	6,582,327	
当期収支差額	209,976	
前期繰越収支差額	6,497,397	
次期繰越収支差額	6,707,373	

エイズ孤児支援NGO・PLAS

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-14-58クリエイト目黒2A

TEL/FAX 050-3627-0271 info@plas-aids.org

www.plas-aids.org/